

里海通信

能登町立小木小学校

令和5年11月2日

2学期の里海学習 頑張っています

1年生 生活科「あきとなかよし」

1年生は生活科の学習で季節による違いを感じるために、4月の里海遠足の時と同じ磯に行ってきました。春に比べて、水位が高く慎重に歩きました。生き物の種類も少し違って、カニやフグなど春にはあまり見られなかった生き物を観察することができました。生き物の観察では、しっかり話を聞くことができました。



2年生 生活科「みんな生きている～水ぞくかんをつくろう～」



2年生の生活科の学習「みんな生きている」で海の生き物を飼いました。いろいろな磯の生き物をのど海洋ふれあいセンターと、能登里海教育研究所の協力を頂いて採集してきました。2年生は、生き物ができるだけ心地よく過ごせるように、図鑑やインターネットの情報をもとに水槽の中のレイアウトを考えました。あまり動かないウニやナマコが昨日と違う場所にいたり、エビやヤドカリが可愛く動いたりする様子を真剣に観察しました。観察を通して「生きている」を実感できました。この生き物や石、砂は11月9日にもとの海にかえます。

3・4年生 総合的な学習の時間「小木イカ PR 大作戦！」

「小木のイカをPRする」というテーマで3・4年生の総合的な学習を進めてきました。いろいろと調べているうちに、「やはり本物のイカを解剖して体のつくりを調べたい。」「人間との違いを知りたい。」と児童から課題が生まれました。そこで、能登里海教育研究所の協力を頂き、船凍イカを使って解剖をすることにしました。



グループで話し合いながら解剖しました。触ってみたいと分からない硬さなどが実感できて、イカの体についての理解が深まりました。また、はじめは「絶対に触りたくない。」と言っていたのに触れるようになる児童もいました。この学習の結果を京都府の西別院小学校の4年生と交流する計画です。

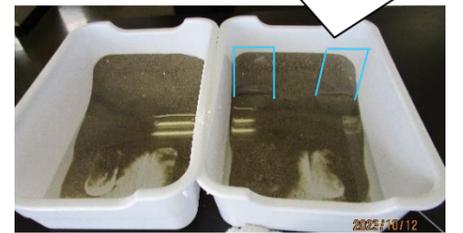


5年生里海科「流れる水の働き」

「流れる水には土を削り取る(侵食)はたらきがある」と学習しました。「海の波も海岸を侵食するのか」という疑問が生まれました。それを調べるために、能登里海教育研究所のご協力を頂きながら、実験を考えました。実験では想定したより、結果が見えにくいものとなりましたが、5年生はわずかな違いについて一生懸命に話し合いました。研究発表会での授業の反省会では、多くの意見を頂きました。他校の理科の先生から「実験の容器を長くすればよいのではないか。」との助言をいただきました。現在、長い容器で同様な砂浜を作り、波による砂浜の侵食について実験を重ねています。



五色が浜の離岸堤の代わりにアクリル板を置き、砂の変化を見る。



5・6年生 総合的な学習の時間「海洋ごみ問題を知ろう」

5・6年生が小木中学校1年生と合同で、赤崎海岸のごみ拾いを行いました。能登海上保安署、能登里海教育研究所の協力のもと、30分ほどの活動で、総量77.4kgのごみが集まりました。後日、ごみ拾いの事後学習を行いました。マイクロプラスチックや漁網などの海洋ごみが、海の生き物に影響を与えていることを学習しました。また、CODパックテストでは、オレンジジュースを入れることで、海水がどれだけ汚れるのかを観察しました。少量でも海の生き物が住めなくなる結果となり、海洋ごみ問題について考え直す機会になりました。今回学習した内容は、校内里海発表会にて全校児童に伝える計画です。



それぞれの学年に応じて話し合い活動が充実してきました。今後は、学習したことを発表するために、より深く話し合い、児童が協力して学習できるように指導していきます。